

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス スマイルナイン		
○保護者評価実施期間	令和7年2月1日		～ 令和7年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 12
○従業者評価実施期間	令和7年2月1日		～ 令和7年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	家庭連携 各利用児の家庭との密な連携が強みである。 連絡票のやり取りは最低限であり、電話、LINEを通して、文章では伝わりにくい事を保護者の方に伝えている。	送迎時のコミュニケーションの充実させることをスタッフに徹底させている。下校から利用状況の様子、短期的、中長期的な変化などをスタッフとミーティングを通して共有し、各家庭に伝える事を心がけている。	SNS等の活用を通して、活動内容を随時アップデートし、利用児の保護者の方へ発信したい。 また課外活動を充実させ、利用児の療育を多角的に進めていきたいと考えている。 利用者限定SNSのコミュニケーションの実施を予定している。
2	縦割り療育の実施 中学生から小学生が多く利用しているので、お兄ちゃんお姉さんがたくさんいる事業所である。 上下関係、思いやりを持つ心をはぐくむ事が出来る事業所である。	イベントを充実させ、利用児の交流を充実させている。 季節のイベント(節分、七夕祭り、スマイル祭り、ハロウィンパーティー、クリスマスなど)を実施し、利用児間の交流を深め信頼関係を構築し、円滑療育を実施するよう努めている。	土曜日、長期休みの療育の充実化。短時間療育以外の日におでかけ、他事業所との交流を充実させていきたい。 長時間療育を通して、普段できない活動を実施し、利用児の発育を促進させる活動を探していきたい。
3	子育てママ職員の充実 当事業所は子育てママのスタッフが多く働いている。各ご家庭からの相談をスタッフ自ら経験した内容を“うちだけでなかった”と安心してお話することができ、たまには雑談を通して解決することができます。	職員会議や療育時間等の仕事の時間のみならず、昼休み等でのコミュニケーションをとることを心掛けている。 普段の職員同士のコミュニケーションを通して、スタッフのリレーションを深め、その内容を各ご家庭へ波及させて、関わる人が笑顔になれる環境を構築している。	保護者参加型イベントを充実化させ、スマイルナインの雰囲気を見てもらう。保護者同士のリレーション構築とスタッフと保護者のリレーション構築をさらに加速させ安心して任せられる事業所を目指していきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	障害に応じた生活空間の構築 利用児の障がい特性に応じた環境設備が不十分なところがある バリアフリー化や子供のけが防止の設備を充実化させていきたい。	たくさん利用児がいることにより、柔軟的に対応しているが対応が遅れ気味になっている。利用児の特性の理解の促進を加速させることが必要と考える。	既存利用児の障がいの特性を再度洗い出す必要がある。 現状の設備で足りない部分を補完する設備の設置を検討することが必要である。また、新たに利用児が増える場合、契約時等にヒアリング項目に設備の要望を追加し、必要であれば随時対応していく。
2	他事業所等との連携 地域の同業種他事業所との連携が不十分である。 行政、地域他事業所との交流を増やしていく活動が必要	事業所間連携、行政連携を通して利用児の成長を促進していく事が必要と考える。閉鎖したコミュニティではなく、開放的でたくさんの人と接することを通して、利用児の成長を加速させていくことが必要と考える。	地域同業他事業所との共同イベントを実施していきたい。 研修等を通して、他事業所とのスタッフ間の連携を深め、お互いの事業所の利用児の交流を活発化させることが必要であると考え。
3	非常災害時の対応 マニュアル作成等は完了しているが、保護者への発信が不十分である。	保護者等への情報発信手段が不足している。 保護者への発信方法の構築化、多角化を検討する必要がある。	保護者向けのリーフレットの作成や、利用者向けのSNSの構築が必要。各家庭が情報を受け取りやすい方法を考え、事業所の事業内容を透明化して伝えていきたい。